



代表取締役社長

中野 隆 義

株主の皆様におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別の御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は平成17年9月30日をもって、第109期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）の前半を終了いたしましたので、ここに上半期の状況について御報告申し上げます。

当上半期の我が国経済は、好調な企業収益を背景として、民間設備投資の増加傾向が続くとともに、雇用・所得環境の改善により個人消費にも明るさが窺われるなど、内需主導による緩やかな回復基調を辿りました。

建設市場につきましては、公共投資は、厳しい財政状況のもとで減少傾向が続きましたが、民間需要は、製造業を中心として堅調に推移いたしました。

こうした中、当社における当上半期の業績は、以下のとおりとなりました。

受注高につきましては、土木工事は、海外の大型プロジェクトの受注等により、前年同期比46.1%増の1,631億円余となりましたが、建築工事は、大型工事は受注が前年同期に比して少なかったことなどから、前年同期比14.9%減の3,715億円余となり、建設事業全体では、前年同期比2.5%減の5,347億円余となりました。また、開発事業等は、前年同期に大型プロジェクトの成約・引渡しを行ったことによる反動減等から、前年同期比47.0%減の551億円余となり、建設事業と合わせた総受注高は、前年同期比9.6%減の5,898億円余となりました。

売上高は、前年同期比1.9%増の5,888億円余となりました。

下半期への繰越高は、前年同期比7.8%増加し、1兆

5,808億円余となりました。

利益につきましては、完成工事総利益が増加したものの、開発事業等総利益が大幅な反動減となったこと等から、売上総利益は前年同期比9.5%減の526億円余、経常利益は前年同期比20.6%減の197億円余となりました。

中間純利益につきましては、カジマ ヨーロッパ ビー ヴィの業績悪化に伴う関係会社株式評価損等143億円余を含む、合計153億円余の特別損失を計上いたしましたものの、27億円余（前年同期比40.8%増）の利益を確保しております。

当社並びに関係会社を含めた当社グループの業績につきましては、連結売上高は前年同期比7.1%増の7,844億円余、連結経常利益は前年同期比0.7%増の187億円余、連結中間純利益は37億円余となりました（前年同期は26億円余の損失）。

中間配当金につきましては、1株につき3円とし、12月9日からお支払いすることといたしました。

今後の我が国経済は、原油・素材価格の高騰など世界経済の動向に不透明感があるものの、引き続き持続的な景気回復が期待されております。

しかしながら、建設市場におきましては、民間設備投資は増勢にある一方、公共工事は一段の減少が予想されており、先行きについては必ずしも楽観できない状況にあります。

こうした中、当社グループでは、本年度を最終年度とする3ヵ年計画である「中期経営計画」の推進に総力を挙げて取り組んでまいりました。その結果、当計画は前年度において1年前倒しでほぼ達成いたしておりますが、今後とも所要の施策を強力に推進し、一層の業績向上に努めてまいります。

すなわち、中核事業である建設事業については、営業・設計・施工部門が一体となった総合力と優位性の発揮により受注量の確保を図るとともに、施工の合理化と徹底的な原価低減による工事利益のさらなる向上に努めます。同時に、開発事業やPFI事業、環境事業等の拡充・強化を図るとともに、重点的かつ効率的な技術開発を推進いたします。併せて、管理部門の効率化と固定費・販管費の縮減、有利子負債の削減・自己資本の充実等についても強力に推進してまいります。

加えて、欧州建設部門における事業推進体制の抜本の見直しを始めとして、国内外の関係会社の収益力強化を図り、連結業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも何とぞ格別の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。